

きょうされん 第6期次世代施設長・管理者研修に参加して

法人内から初の参加となり、どうなるんだろうと不安を抱えながらの参加になりました。2019年7月11日～13日(前期)・11月28日～30日(後期)の6日間の研修を終えての感想としては、全国から集まった同期生の皆さん20名の方と出会えたことが、まず私の財産だと思っています。年齢も幅広く、現在の立場もそしてバックグラウンドも異なる方に、ほんの少しかも知れませんが、同じ志と願い、想いをともにできたことが刺激でした。また、そこに最強の講師陣、スタッフの方に支えられて、何とか6日間突っ走ることができたと感じています。



今回の研修参加の動機に①「様々な事柄に対してじっくり考えること」②「多角的に検証すること」③「自身の表現能力(文章や言葉にすること)の向上」の3つのポイントをあげました。

①前期3日間の完全生話講義!!の中で、これまで日々流され、自身の中でこなせなかった情報が一気に流れ込んで来ました。さすがに頭がパンパンでしたが、不思議と嫌な感じはなく、以降の生活業務の中で自然に様々な「情報」が自分に引っかかるようになりました。

そうすると、「1つ1つ」のことが以前よりも少しずつですが余裕を持って考えられるようになってきたように感じています。

②前期の情報の嵐、後期の「生」の現場の迫力。併せて、物事をあらゆることから考えさせられました。まだまだ、色々な見方ができるのではないかと、そういった意欲も自然とわいてきています。

③これに関しては、なかなか思うようにできず苦労しています。自分で自分が嫌になっていますが、諦めず、寄り添い、支えていただいたスタッフの皆さんや、未完のレポートでも一緒に考えて付き合ってくれた同期の皆さんの温かさに、何とかついていきたいと思いでやってきました。

今回の研修に参加して、これからのみなと福祉会がどうあるべきなのか、今後の課題とともにこの研修で学んだことを活かしていきたいと思っています。

(イルカ作業所 佐藤彩)

クリスマス会に寄付いただきました イオン南陽店さま



イルカ作業所では、12月14日(土)にイオン南陽店さまのご協力で、クリスマス会を楽しみました。当日は、歌やレクリエーションをイオンの方と一緒に楽しみ、今年もケーキ作りに気合を入れましたああ!!最後にはサンタクロースが登場して素敵なクリスマスプレゼントを頂きました。イオン南陽店さま、ありがとうございました。

演劇へ招待していただきました 日産労連さま



クリスマスチャリティとして11月30日(土)劇団四季観劇のご招待をいただきました。今回の会場は小牧市民会館。『はだかの王様』を75名で鑑賞しました。迫力と笑いにあふれる本物のミュージカルにみんな大満足でした。日産労連さま、ありがとうございました。

編集後記

今回の「明日をつむぐ」新春号はいかがでしたでしょうか。1月に成人式を迎え、みなと福祉会では新たに4名が新成人となりました。おめでとうございます。これから大人の仲間入りとして、更なる飛躍を期待しております。

特集では、事業所紹介が第4回目となりました。今回は、みなとホームを紹介しています。

毎回、事業所の取り組みや仲間の楽しそうな様子など、各事業所で工夫して伝えてくれています。これからも、まだ紹介できていない事業所を特集していきますので、ご期待ください。

新たな1年が始まりました。今年も皆様にとって良い1年でありますように。

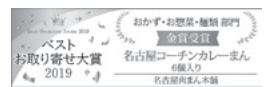
(鯉江嘉道)

わーくす昭和橋の肉まんが 『ベストお取り寄せ大賞2019』で

金賞

この度は大変名誉な賞を受賞し、みんなで喜んでいきます。

名古屋の食材の魅力と美味しさを、肉まんに包んで皆様にお届けできたらとの思いから、私たちの肉まん作りが始まりました。この原点を忘れることなく、今後も精進していきたいと思っております。





新春の「あいらじ」

港区障害者(児)とともに育つ会 会長 磯崎明美

ともに育つ会は、幾つかの団体を発展・統合して45年が経ちました。障害者の又、家族関係者の思いや願いを充実させ運動を進めてきました。リーダーとして先頭になって走ってききましたが、昨年の暮れ、その走ってきた足が故障して、入院、手術をする事になり、約1カ月間病生活を余儀なくされ、改めて歩く訓練からする事になりました。

次男が障害を負って歩行訓練を始めた頃を思い出し、随分厳しくした自分を振り返っていました。次男が描く母親の絵は、いつも頭に角が2本立っていました。恐ろしかったでしょうね。

入院している間、時間を持て余し、本を一気に読み漁りました。随分前に買って、字が小さくて読みにくいと思っていた、19世紀のフランスの作家で、最後はアメリカに渡って生涯を終えた「イデオ教育」の開拓者セガンの本を手にして、彼の言葉に自分を比しては恐れ多いが、今、改めて彼の200年以上前の行動とは思えない活動、言葉に感動しました。

その一部に「子ども自身、事物及び人々と創り上げなければならぬ、諸関係に適應する事が必要なのである。これが教育の究極的な目的である。我々にとって教育とは自己撞着に終わるのではなく、何事かの始まりである。」

「子どもは彼らの身体的、知的状態にふさわしい教育を受けなければならない。子どもを怖れさせる手段をもたない。」

この言葉が、セガンのイデオ教育に求めていた課題だという。青年セガンが到達した考えという。彼は色々な補助具や教具を開発している。その中でも私が、とてもショックだったのは「べらつく脚を、きちんと定めて

歩かせる目的の編み上げ靴を含めた「セガン教具」といわれる教具、教材の類が具体的に想起することが出来る、パリの医学史博物館に残っている「写真を見て次男が、その180年後に履く事になった補装具の靴が、

どの位、発達したかを見た時、息子が「いもぐつ、おんもい、いもぐつおんもい」と泣いて、いつも抱っこをせがんだ「編み上げの紐の靴は、靴底に鉄板が敷いて腰のバランスをとって、転ばない様

にしてあると言ったもの」。この人が、この今の時代に居たら私も、もう少し楽ができたかなと考える。

年明け、私もリハビリに励むことになるが、リハビリ科の先生は、とても優しく的確にアドバイスを下さり、年老いた、この身を叱咤している。私たちの周りに障害者に関わる多くの人がいます。改めて、あの時こうなっていたら、こうすればの反省を幾つか繰り返しながら考え、発達を確認、検証、毎日記録をとる事、公表していく事も大事という。意識したいと思えます。

最後に「困難や不快感、うんざりする妨害でいっぱい」の任務。ただ一つ報われるのは、成功、尊敬、そして敬意である。不屈の精神を持って最後まで続ける為の勇敢な人を待望するからこそだ。」と結びたい。本年もどうぞよろしくお願い致します。



40年前 恵一の靴



「セガン教具」の一つ、編み上げ靴



第42回 港区障害者(児)合同クリスマス会盛大に開催

《2019年12月21日(土) 午後1時～港区役所講堂にて開催》

「凍えた街の温かいクリスマス～星を探しに飛び立て宇宙へ～」をテーマに、劇団名古屋の皆さんの楽しい劇で大いに盛り上がりました。公職者の方々をはじめ多数の来賓の皆さまにご参加いただきました。

また今年もたくさんの商品の寄贈、ご寄付を賜り、心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

《商品の寄贈団体様》

- ・ユニー株式会社ポートワーク
みなと店様
- ・イオンモール名古屋みなと店様
- ・名古屋ヤクルト販売株式会社様
- ・日本製粉株式会社様
- ・日清製粉プレミックス株式会社様

《ご寄付》

- ・港区女性団体連絡協議会様
- ・名古屋みなとライオンズクラブ様

《協力団体様》

- ・劇団名古屋様
- ・シックスピース様